

観察会のご案内

再発見！天草の森・川・海

……川がつなぐ古江岳の照葉樹林と羊角湾の干潟と海……

実行委員会では、「再発見！天草の森・川・海」と銘打って古江岳・路木川・羊角湾一帯の観察会を行います。この一帯は川の源流から海域までの流域生態系が一体として残っている貴重な場所です。しかも、コンパクトにまとまっているので生態系を学ぶのに絶好の場所なのです。今回は、金井塚 務さんに説明をしてもらいます。金井塚さんは、広島フィールドミュージアム代表、日本森林生態系保護ネットワーク副代表を務めておられ、生態系に詳しい方です。私たちは、金井塚さんと実際に現地を歩き、その体験をもとにシンポジウムを開き、真に持続可能な社会を目指すには、私たちに何が必要か学び合いたいと思っています。是非、多くの方に参加していただいて、実りある観察会にしたいと思っています。よろしくお願ひします。

- 日 時 2015年5月16日(土)午後～観察会
- 5月17日(日)午後～シンポジウム
- 資料代 1000円

企画に当たって

今は亡き宇井純さんが天草で講演されたことがありました。その中で、生態系の循環について話されました。森(陸)・川・海は人間を含む様々な生き物によって循環しています。森が育てた栄養分は、川を通じて海に流れ込み、海の生き物を育てます。海の生き物は鳥や人間などの生き物のえさとなり、その栄養分が陸に戻されます。海藻類を人間が陸揚げし、農地の肥料にすることも、陸から海に流れ込んだ栄養分を陸地に戻す働きになります。この陸から海、海から陸への栄養分の循環がスムーズに行われているとき、自然の生産性は最大になるのです、というようなお話でした。人間も、社会的・都市的存在である前に、自然的存在です。自然からいただく恵みなしに人間の生存はあり得ません。してみれば、持続可能な社会を考えた場合、人間の生活も、自然の生産性が最も高くなるように、生態系の循環にきちんと組み込まれた生活が望ましい、ということになります。

今、河浦は崎津集落が「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」に含まれ、世界文化遺産に登録されようとしています。また、羊角湾の干潟は生き物の宝庫で、絶滅危惧種がたくさん生息しています。ここで、豊かな自然とはどんなものなのかを学ぶと同時に、その豊かな自然と共に営まれてきた人々の暮らしについても学び、これからの天草について考える機会にしたいものです。

実行委員会代表 洲崎 昭重